



記念事業に5000万円募金 目標まで1100万円 オンライン募金 が可能に



秋田県立秋田高等学校
創立百五十周年記念事業
募金趣意書

拝啓 同窓の各位におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、私たちの母校秋田県立秋田高等学校は、令和五年九月一日をもって創立百五十周年を迎えることとなります。

秋田高校は、明治六年の創立以来、その長い歴史を通じて、文武両道と自主自律の精神のもと、品性の陶冶を目指した全人教育が行われてきました。幾多の有為な人材を生み、なお新しい時代を拓かんと躍動し続けていることは、同窓の各位とともにまことに同慶に堪えないところであります。

しかしながら少子化の波にともない、現在は校歌にある一千健児を割り込み一学年七学級、全校生徒八百人余となり、母校を取り巻く環境には厳しいものがあります。このような現状をみるに、母校のなご一層の充実、発展を期することは、我々同窓生に課せられた責務であると考えます。

この度創立百五十周年の大きな節目を迎えるに当たり、秋田高校ですごした青春の日々に感謝しつつ母校の教育のさらなる発展を願ひ、教育施設設備の整備、教育活動の活性化支援、百五十年史、新先蹤録の刊行など記念事業を行うための資金として一口五千元を募り、目標額を五千万円といたしました。何卒、母校の発展と後輩育成のため、ご寄付賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

令和四年七月

敬具

秋田県立秋田高等学校
創立百五十周年記念事業実行委員会委員長

同窓会会員 各位

同窓会長 銭谷 眞美

秋田高校は、令和5年9月1日に創立150周年を迎えます。同窓会はこれを記念して、母校の教育振興を目的とした教育振興基金の拡充などを計画しました。事業資金として5000万円の目標額を設定し、一口50000円の募金を全会員に呼びかけています。

主な記念事業

- ① 秋田高校教育振興基金の拡充 3000万円
- ② 150年史の刊行 800万円
- ③ 新先蹤録の刊行 570万円
- ④ 同窓会員データ管理システムの更新 500万円
- ⑤ ホームページのリニューアル 150万円
- ⑥ 同窓会だより臨時号の発行 300万円

募金計画

- ◆ 目標額 5000万円
- ◆ 期間 令和4年7月から令和5年8月末日まで
- ◆ 募金方法 一口5000円。できれば2口以上お願いします。また、50000円未満でもありがたく受付します。

◆ 払込方法

同封の払込用紙をご利用ください。払込先の受領証をもって領収証に代えさせていただきます。

◆ 現金書留又は秋田高校同窓会事務局までご持参いただいても結構です。
問い合わせ先
〒010-0851
秋田市手形中台一番地
秋田県立秋田高等学校内
創立150周年記念事業実行委員会事務局
電話 018-832-9553
FAX 018-832-9588
Eメール aki-toso@cna.ac.jp

同窓会ホームページからのオンライン募金ができるようになりました。(一口5,000円～)



秋田高校創立150周年記念事業 予算

収入の部		(単位:円)	
項目	予算額	摘要	
繰入金	15,000,000	基金会計からの繰入	
有償頒布	6,000,000	150年史の有償頒布	
寄付金	50,000,000	1口5千円(できれば2口以上。5千円未満も可)	
合計	71,000,000		
支出の部			
項目	予算額	摘要	
①教育振興基金の拡充	30,000,000		
(1)「北雄の翼」支援事業	17,000,000	170万円×10年	
(2)講演会講師派遣費	10,000,000	100万円×10年	
(3)大体育館電動スクリーン・プロジェクター	3,000,000		
②150年史の刊行	8,000,000	A4版変形、本文約400頁、グラビア32頁、3千部	
③新先蹤録の刊行	5,700,000	A5版、縦書き2段組約300頁、3千部	
④同窓会員データ管理システムの更新	5,000,000		
⑤ホームページのリニューアル	1,500,000		
⑥同窓会だより臨時号の発行	3,000,000		
⑦記念行事、祝賀会、通信費など	3,300,000	記念行事、祝賀会など	
⑧羽城館整備費	1,500,000	建築設備、空調機器の整備	
⑨事務局費	2,500,000		
⑩予備費	500,000		
⑪繰出金	10,000,000	基金会計へ繰出し	
合計	71,000,000		



同窓会副会長
(財政担当)
三浦 廣 巳

日頃より同窓会活動並びに募金活動にご理解とご支援をいただきまして、御礼申し上げます。4月末現在、2,950名の同窓生から3,900万円を超える募金をいただいております。残された期間はわずかとなくなりましたが、どうか同期の皆様と声を掛け合いながら募金に積極的にご協力いただき、ますようお願い申し上げます。150周年を皆様と共に祝うと同時に、在校生の支援に資するものでありますので、よろしくご願ひ申し上げます。



～北雄の翼～

人材の育成に OBの力を

今回の150周年記念事業の中で、最も力を入れようというのが「北雄の翼」支援事業です。

「北雄の翼」は2018（平成30）年から、同窓会の支援を受けて学校が行っている海外研修です。初年度は28人、2年目は43人の秋高生がアメリカ・ボストンのタフツ大学（明石康元国連事務次長の母校）を訪問しました。

参加する生徒向けの事前事後の6回にわたる学習会も効果的で、しっかりと意識づけをしたうえで参加するシステムも構築されているほか、英語によるディスカッションやプレゼンテーションだけでなく、本校OBをはじめ現地で活躍する方々から直接うかがう熱い話、最先端の大学や研究機関を見学する機会など、多種多様な刺激が得られるプログラムとなっています。

また寮生活を行う大学のカフェテリアでの食事も、大学

生や研究者、同じような企画で参加した他国の高校生とコミュニケーション能力を高める、あるいは未熟さを突き付けられる貴重で刺激的な機会となっているとのことです。

当時副校長としてこの研修を担当した柘植敏朗校長は、「何よりも、帰国後の生徒の成長ぶりには目を見張るものがあり、短期間で見違えるほど変化する様子や周囲の生徒に与える好影響もこの企画のすばらしさの一端を物語っている。参加した生徒の中には、卒業後直接海外の大学に進学したり、地元のまちおこし・活性化のために廃業した温泉を地域の力を借りて復活させる活動を始めた者なども出ています。」と語っています。

なお、コロナ禍のため2020年は中止、2021年はオンラインで、2022年は東京で実施しました。今年7月にアメリカ・ボストンで実施する計画です。

2019研修に参加した生徒の感想

伝える力

2年女子

アメリカに行き、私の中で何かが変わった。きっかけはカフェテリアのこと。滅多にない機会だと思い、思い切って近くにいた中国人4人の女の子たちに話しかけた。彼女たちは、私の2歳年下だが、明らかに英語のスキルが高かった。圧倒されながらも、話していくうちに、中国の文化や彼女たちが日本に興味を持っているということが分かり、話が弾んだ。いつの間にか普通の友達のように仲良くなった。彼女たちと話す度に私にとってよい刺激となり、モチベーションの向上へとつながった。同時に相手がたとえ外国人でも、自分の考えを一生懸命伝えれば、心も通じ合えることが分かった。一番大切なことは、

英語が話せることではなく、自分の考えを積極的に伝えようとするのだと、この研修を通して学んだ。



ハーバード大学にて



カフェテリアで。さまざまな国の方と交流しました



同窓会だより106号より再掲